

留学報告書
～発見と成長の念願の留学生活～

クワントレン大学
国際文化学部（中期）

私は、2024 年 8 月下旬から 12 月中旬の 4 か月間、カナダブリティッシュコロンビア州にあるクワントレン大学に留学しました。留学をすることは小さいころからの大きな夢であったため、実現できたことを嬉しく思います。

カナダは多国籍国家として有名であることもあり、様々な国の方を見かけて異文化に触れることができました。街を歩いていると、英語だけでなくフランス語、ヒンディー語、スペイン語や中国語まで耳にすることができ、まるで世界中の人々が一つの街に集まっているようでした。スーパーは主にアジア系とアメリカ系の 2 つのスーパーがあり、アジア系住民がカナダに根付いていることを実感しました。また、私がホームステイをしていたサレーという地域はインド系の人で溢れていました。そのため外を散歩していると、家の中からカレーの匂いがよく漂っていました。夜になると、様々な場所から小型の花火が打ち上げられていました。



授業は ELST という英語を学ぶクラスのうち Listening & Speaking と Academic Purposes の二つを受講しました。クラスメイトは私たち日本人以外、ほとんどが親世代の方でした。中国、韓国、ポルトガルやパナマと様々な国の人が集まっていました。毎日、どちらかのクラスを 1 コマ受けます。授業数自体は少ないですが、1 コマ約 3 時間と長時間で慣れるまでは集中力を保つのが大変でした。授業スタイルはグループワークが多く、自分の意見を発言

する機会が多かったです。最初の1、2 か月は思うようにグループワークに参加できず苦戦しましたが、先生やクラスメイトが話しやすい環境を作ってくれてフォローをしてくれて徐々に自分の意見を伝えることができるようになりました。Listening & Speaking クラスのプレゼンとスピーキングテストが私にとって1 番難しかったです。プレゼンは1 グループ3、4 人で行います。チーム内でコミュニケーションを取ることも難しかったです。それ以上にプレゼンのテーマに対しての考え方や取り組み姿勢が各国で異なっていて文化の違いを感じたと共に苦戦しました。スピーキングテストは10 分間で数個のテーマに対してディスカッションを行います。私は、英語で発言するという以前に、自分の意見が日本語でも思いつかないことが多く、自分の未熟さを痛感しました。しかし、回数を重ねるごとに点数も上がっていき先生に褒めてもらえることも増え、とても嬉しかったです。

クラスメイトとご飯も食べに行きました。年齢も性別も国も全く違う子供のような私たちのことを受け入れてくれて仲良くしてくれました。自分の国のことについてお互いに話して、異文化交流も深くすることができました。また、授業終わりにジムや体育館へ行き、運動も欠かさず行っていました。体育館では他の留学生と会うことも多く、一緒にバドミントンをしたりして交流を楽しみました。他の留学生は ELST だけでなく通常授業も受けていました。自分ももっと英語能力があったらと何度も後悔をすることもありました。



ホームステイは、学校から徒歩15 分のカナダ人の家庭を選びました。家に着いてすぐに門限、使用方法、使用頻度、金銭面などの基本的な事のルールを確認しました。生活リズムは、基本18 時にはご飯を食べお風呂に入って23 時には消灯するという、とても健康的な生活を送っていました。ホストファザー以外もこのような生活リズムでした。ホストマザーや娘さんとは、私が英語を流暢に話せないこともあってあまり深く関わることができませんでした。どこか一緒に出かけることも1、2 回くらいで会話も最小限でした。しかし、ファザーだけはそのような私を全く気にせずフレンドリーに話しかけてくれました。たまに夜遅くまで起きていると、リビングに呼んでくれて一緒にお菓子を食べながら映画を見たり、勉強をしていたらお菓子を届けてくれたりと、優しく接してくれて嬉しかったです。私以外にも同じ大学に通っている学生が2 人住んでいました。1 人は日本人の男性でもう1 人はウクライナ人の女性で、2 人とも英語はペラペラでした。みんなで遊びに行ったり、ご飯

を作ってもらって一緒に食べたり、暇な時はみんなで喋ったりと、2人とも親切で優しくして私に英語を成長させる機会をたくさん作ってくれて感謝でしかありません。また、猫が2匹いて、1匹は毎日一緒に寝るくらい懐いてくれました。英語で息詰まって苦しい思いをしているときに私にたくさんの癒しを与えてくれました。食事や生活リズムなど日本の生活との違いに驚くこともありましたが、現地の人の生活を間近で経験することができて貴重な経験になりました。



休みの日はバンクーバーを中心に様々なところへ出かけました。1人でどこかへ行くことも多く、1人でいると話しかけてくれる人がたくさんいます。世間話から私についての話、おすすめの観光スポットまで気軽に話しかけてくれて教えてくれました。一歩間違えれば危険に繋がる可能性もありましたが、英語を成長させる良い機会だと思い積極的に会話を楽しんでいました。また、レストランに入って食事をしていると、「美味しいですか？大丈夫ですか？」と定期的に店員さんが声をかけてくれます。日本ではあまり経験のできないことを経験することができて、人々の温かさや親しみやすさを何度も実感しました。その一方で、気が重くなるような経験もしました。ダウンタウンへ行った時に数えきれないほどのホームレスの方を見かけました。道路はゴミが散乱し異臭を放っていました。日本との社会格差を実感したとともに、自分の生活がどれだけ恵まれているかを改めて考えさせられました。

今回の留学を得て、自分の未熟な部分や愚かさ、今の日本での暮らしのありがたさに気づくことができました。そして、慣れない環境の中でも、何事にも挑戦をして経験することが大事だと考えさせられました。挑戦をすることで様々な課題に直面しますが、新たな発見が生まれて成長に繋がります。私は、カナダの多様な環境の中で、英語力の向上はもちろんのこと、考え方の幅が広がって内面的な成長を強く実感しました。同時に、自分の意志の弱さ

や考え方がいかに狭い中にあったのかを気づくことができました。困難な状況に置かれても、ポジティブな思考を持ち挑戦できたことも大きな成長だと感じます。このような多くの成長を実感できたのは、先生、友達、クラスメイト、両親など、この留学に関わって下さったみなさんのおかげです。この感謝の気持ちを忘れず、次の自分の成長へと繋げていきたいです。そして、カナダで感じた世界の社会問題や課題に向き合い、社会貢献できるような行動に移せる自分でありたいと考えます。

